

# 大学における「学び」(課外・自主活動・学生生活)

本書の第1部は、立命館大学が学生の「学び」を進めるための大学を作ってきた歴史と現在を示しており、第2部は、みなさんが大学生になるための援助となるものです。



法学部 教授 山本 忠

## ■ 正課における「学び」

「大学は学問の府である」というフレーズは耳にされたことがあるでしょう。大学は人類が生み出してきたさまざまな「知」を専門的に研究し、体系的・系統的に教授する場であるということですが、ここで語られている「知」はどちらかというと「学問知」にウェイトが置かれています。人類が長年かけて創造・発見してきた「知」を論理的に整序してきたものが「学問知」ですが、これを講義(教室という空間で行われる知的伝達)だけで学び・身につける(学修する)ことは簡単なことではありません。大教室で体系的・系統的に展開される講義で学ぶ「学問知」をさらに深く理解し、定着させるために設けられているのが演習、実習、留学、インターンシップ、サービ斯拉ーニングといった授業形態です。こうした実践的な授業で身につけることができる「実践知」や「経験知」が「学問知」と有機的に融合することで、大学における「学び」がより深く定着できるのではないかと考えられています。こうした観点から、学生の「学び」がより総合的に深まり、定着するように工夫されているのが、立命館大学の各学部の正課のカリキュラムです。

立命館大学での「学び」の工夫のもう1つの特長としてあげることができるのは、学生同士の学びを重視して、多様な形で正課に取り込んでいる点です。基礎演習等の1回生を対象にした初年次教育では上回生のオリター(エンター)やES(エデュケーションサポーター)、TA(ティーチングアシスタント)が多数配置されています。ピア・ラーニングやピア・サポートとも呼ばれますが、上回生と下回生の間で、あるいは同回生同士で学びあい、育ちあい、高めあうというこの仕組みによって、学生の「学び」がより深く定着することが期待されているのです。

## ■ 課外・自主活動における「学び」

学生は、生徒から大学生に転換し、そして社会人へと学び・成長していく発達主体です。学生が学びの実感をもつ機会是在学中数多くありますが、それは教室という空間内にとどまるものではありません。正課以外の課外・自主活動において、学生は様々な「実践知」や「経験知」を体得します。そのことによって人間的に大きく成長する学生もいれば、「学問知」をより深く理解していく学生もいます。

例えば、各学部には、学部系サークルやプロジェクト団体があります。法学部における学生法律相談部は定期的に法律相談を行っています。その活動を通じて、講義で学んだ「学問知」をより具体的により深く理解することが可能です。また、理工学部のロボット技術研究会も多くのコンテストに入賞し活躍していますが、これらも授業で学んだロボット工学や制御技術の「学問知」を実践的に展開した成果だといえます。

こうした各学部における「学問知」と近い関係にある課外・自主活動だけでなく、立命館大学には、文化・芸術・スポーツ分野において非常に高いレベルの活動を展開している様々な課外・自主活動が多数存在します。関西レベル、全国レベル、国際レベルといった高いレベルで活躍している学生諸君はそれぞれ

の活動を通して「実践知」や「経験知」を豊かに体得しています。個人の技量レベルを引き上げるための様々な努力・工夫だけでなく、集团的に展開される活動においては集団内部をまとめる人間関係の調整能力も求められます。また、大学生の課外・自主活動の多くは学生自身の手によって運営されているため、自らの属する学生集団以外の団体や年齢層の異なる社会人集団と交渉・調整しなければなりません。こうした体験を通じて、学生は社会人基礎能力の中でも重要なものとされるコミュニケーション能力を高めていくことができます。

さらにもう1つ指摘しておきたい能力として時間管理能力をあげておきます。課外自主活動において高いレベルで活躍する学生も本業は学業です。立命館大学では、課外と正課の両立(文武両道)を重視しています。例えば、体育会の場合、学業をおろそかにする学生については公式戦への出場を制限する処分を課しています。課外活動でいくら優秀だからといって、正課をおろそかにしてはなりません。このために必要な能力が時間管理能力です。時間は誰に対しても平等に流れていきますが、その時間をどのように利用するかは人によって違います。一日単位、1週間単位、月単位、半年単位、そして年間単位で、それぞれ目標をもって時間管理することが必要です。これができない学生は、課外活動の多忙を理由に学業がおろそかになり、4年間(薬学部薬学科は6年間)での卒業も危うくなってしまいます。どんなに課外活動が多忙でも正課の学習時間を必ず確保する。優秀な学生諸君はこのことを実践してきました。新入生のみなさんも4年間(薬学部薬学科は6年間)を見通して自律的に時間管理ができる能力を高めるように努めてください。

## ■ 包括的学習者支援

立命館大学では、以上に見てきたように正課と課外の両立、さらには正課と課外の枠を超えた自立した学びと学びあいを学生が展開できるように教育的視点から支援しています。そのためには多様な学びあいのコミュニティを多数形成し、根気強く支援していくことが必要だと考えています。クラブ・サークル活動もそうしたコミュニティの1つとして位置づけることが可能ですが、さらに国際化を推進する観点から国際学生と国内学生がともに学びあうコミュニティをより豊富に形成することが必要だと考えています。

また、立命館大学では、多様な学生の学びを個別的に保障する観点から、大学生生活に困難を感じる学生への支援、特別な支援ニーズをもつ学生への支援なども行っています。

こうした包括的学習者支援については、主に第2部以下で具体的に説明されています。大学生は自分自身と向きあい、他者と交流しながら、多くのことを学び成長していきますが、その過程では様々な困難・障壁を乗り越えなくてははいけません。第2部を読めば、そうしたハードルをクリアするためのヒントが見つかるはずです。

本書を有効に活用して、新入生のみなさんの大学生活が順調にスタートすることを願っています。